

+Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒 194-0211
東京都町田市相原町 1857
長谷川 あや子
TEL & Fax: 042-771-6962
E-mail: ayako.h3@nifty.com

2025年11月

The Service Club of The YMCA

第365号

東京ハ王子ワイズメンズクラブ

会 長 長谷川 あや子
副会長 久保田 貞視
書 記 小口 多津子
会 計 稲葉 恵子
直前会長 並木 真
担当主事 西嶋 健太
ブリテン 山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン (シンガポール) 主題「信念、愛、行動」
スローガン「共に、より強く」
アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさし) 主題「信念と愛を持って行動しよう!」
スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
東日本区理事 山下 真 (十勝) 主題「ワイズのらしさ再発見」
スローガン「Change!」
あずさ部部長 山口 直樹 (東京武蔵野多摩) 主題「垣根を低くし、活発な活動を」
ハ王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

2025 年 11 月例会プログラム

日時: 11 月 8 日 (土) 13:00~15:00

会場: 日本キリスト教団八王子ベテル教会

〒193-0812 八王子市諏訪町 83-1 TEL 042-659-0281

担当 C 班 山本、大久保、西嶋、並木 (信)

受付: 大久保・山本 司会: 西嶋ワイズ

< プログラム >

- ・開会点鐘 会長 長谷川あや子
- ・ワイズソング 一同
- ・ワイズの信条 一同
- ・聖書朗読・祈祷 並木 (信) ワイズ
- ・ゲスト・ビジターの紹介 会長 長谷川あや子
- ・会食
- ・卓話「日本での百年—カナダ・メバジスト教会の歩み」
卓話者: 甲府 21 クラブ 会員 後藤哲夫氏
(元山梨英和学院中等・高等学校英語科教諭)
- ・諸報告 会長・YMCA・各担当
- ・スマイル 大久保ワイズ
- ・ハッピーバースデー 会長 長谷川あや子
- ・閉会点鐘 会長 長谷川あや子

クラブ活動報告

先月の例会ポイント (10 月)

在籍	11 名	切手	計 0g
メン	8 名		
メイキャップ	0 名		
出席率	73%	現金	0 円
メネット	1 名	スマイル	0 円
ゲスト	0 名	累計	23,900 円
ビジター	0 名		
ひつじくも	1 名		

例会卓話の報告

< AYC 熊本大会に参加して >

ひつじくも 岩崎 葵 さん (代読: 並木真)

今月の聖句 (2025 年 11 月)

「だから、こう祈りなさい。『天におられる私たちの父よ 御名が聖とされますように。御国が来ますように。御心が行われますように。天におけるように地の上にも。私たちに日毎の糧を今日お与えください。私たちの負い目をお赦しください。私たちも自分に負い目のある人を 赦しましたように。私たちが試みに遭わせず 悪からお救いください。』もし、人の過ちを赦すなら、あなたがたの父もあなたがたをお赦しになる。」

(新約聖書 マタイによる福音書 6:9-14 聖書協会共同訳)

巻 頭 言

「栄村コシヒカリ特別例会」

長谷川あや子

10月25～26日、長野クラブ設立15周年「栄村コシヒカリ特別例会」に参加いたしました。長野クラブは2010年10月2日にチャーターされましたが、その5か月後に東日本大地震が発生、そして長野県内では翌日に栄村大地震が発生、甚大な被害をもたらしました。当時の水崎会長、その後の森本会長を中心に被災地に足を運び被災状況、復興状況など伺い、自分たちに出来ることから実行に移したそうです。

2013年10月26日には「栄村とともに新米を味わいましょう！特別例会」を開催し、あずさ部を中心に大勢のワイズメンが集まりました。15周年の計画も長野クラブの節目を迎えるなら「栄村に行きたいね！」と誰となく口に出たそうです。

会場は栄村の「中条温泉トマトの国」、最寄駅は森宮



野原。日本最高積雪地点です。山梨や松本からのメンバーは車で集合されましたが、久しぶりにあずさ部の人たちに会い嬉しくなりました。記念例会後の第二部は記念卓話として「栄村大震災における消防団活動について」齋藤真吾様、「今とこれからの栄村について語る」福原一男様のお二人からお話を伺いました。

長野県栄村は日本海型の気候により全国有数の豪雪地です。(最大積雪3m前後)、人口は2012年6月末2237人(903世帯)。震災当時の消防団副団長だった齋藤様(栄村議会議員)のお話では、3分団20班34名の消防団員が地震発生後すぐに集落ごとに決められた避難場所へ駆け付けて安否確認を行った。避難場所には

24時間体制の警備など不眠不休でさまざまな活動を行ったそうです。前年にあらかじめ集落ごとに避難場所を決め、災害が起こった時はそこに集まり、消防団員が安否を確認するという訓練を行っていた。そのおかげで地震午前3時59分の1時間後には住民全員の安否確認がとれたそうです。

元村振興公社総務係長、栄村議会議員の福原様は、震災から14年、復興から生活の暮らしは戻っているが、担い手の若い人が減っていることが村として最重要課題である。村をどのように立て直して行くか村作りを進めている—と話を結ばれました。

お楽しみのワイズディナーは栄村産100%特Aのお米を使った郷土料理を地酒とともに。本当に美味しかったです。食事の後はお酒とおつまみでワイワイガヤガヤ、一泊なので安心！

翌日は雨でしたが栄村物産館や震災復興祈念館を見学して帰途に着きました。雨の中、列車が見えなくなるまで手を振って見送って下さった長野クラブの皆さま、本当にありがとうございました。

☆10月22日精米の長野県産コシヒカリ1kgをお土産に頂きました。美味しかったです!!



長野クラブの皆さんのお見送り



森宮野駅(日本最高積雪地点)

第28回ボランティア・フォーラム (町田YMCA)に参加して

小口多津子

10月27日町田市中心地にある市民フォーラムのビル、4階の町田ボランティアセンターでこのフォーラムがありました。古い歴史がある町田YMCA、今は拠点地の建物もない町田YMCAですが、その唯一の守り人の榎藤徳彦ワイズを中心に、東京町田コスモスクラブがプログラムをいくつも展開している、それが今の「町田YMCA」です。その中の大きな二つのプログラムのうちの 하나가、今日のボランティア・フォーラムでした。

今年で28回目のプログラムでした。第1部は、町田社会福祉協議会センター長の小林稔明氏の「ボランティアのスタートに年齢はない」で、町田社協の取り組み、活動の事例のお話。

コロナ前までは、夏の体験ボランティアが学生、高校生を中心に100人近くの参加者で、昨年は67人に減少。幅広い多くの施設で体験した参加学生が、生きがいを見つけたという感想などを説明された。

第2部は、東京多摩スマイルクラブのワイズメン、社会福祉士の峰毅氏による「守られて役立つ障がい者手帳の申請、要点」。いわゆる福祉サービスの基本は、申請主義であること。あくまでも本人の意思に基づき、本人の申請がない限り、役所は何も動かない。たとえば、身近な例では救急車が自宅に来て、本人が断れば、載せてくれないという事例がある。

また高齢になると、身体、精神に障がいが出る、数ある福祉サービスを日頃から家族で、情報を知っておくこと。社協や、役所からは申請しない限り、尋ねてくることはない。あくまでも基本は申請主義、ということ。各種手帳の説明、障がいの等級など「備えあれば憂いなし、知識は荷物にならない」を心しておくこと。いろいろな事例を話されたが笑っている時間などない、と思われた。

休憩をはさんで、第3部は、防災士資格を持たれる加藤祐一ワイズ。在宅避難生活の知恵と工夫で、能登大地震での避難生活の中で何が一番、困ったかの事例、その為に役に立つチラシ紙利用の食器や、物入、トイレの話など。人は災難に会うと起こる心理状態について。ストレス、不安が高くなると人は無我の境地に近いフロー体験をする。高いスキルこそ、精神を維持できる。ライフラインが止まっても備えられる食事の話などでした。

今日の講演者の高度なお話は、この先どこかいつか必要となることばかり、遠い先のことではないと、貴重なご講義でした。



(写真は、左から加藤ワイズ、峰ワイズと司会榎藤ワイズ、小林氏は先に帰られた)

後藤哲夫さんを語る (1人の紹介者として)

野々垣 健五

甲府21ワイズメンズクラブ

後藤さんと私は昭和18年生れの同学年。まさに第二次世界大戦の戦時中の生まれ。当時、小学校で片親家庭は珍しいことではなく、彼も私も母の手一つで育てられている。



まず語るべきは後藤の華々しく颯爽としていた中学時代。甲府市内には東、西、南、北にそれぞれ中学校があり、彼は西中、私は北中であった。今、彼の周りにいる仲間の中で彼と最初に出会ったのは私かも？と思う。それは、当時人気のあったバスケットボールの試合で、県内で一番強い中学が後藤のいる西中で、彼は圧倒的なエースでセンター、私は北中で補欠とレギュラーの間におり、我々は彼が活躍する西中とは公式試合で3回、練習

試合も数回あったが全く歯が立たず、完敗であった。

そして二人が通った甲府一高はバスケットボールが県内一強い高校で、彼はそこのエースになるだろうと思っていたが、彼はバスケットボールをキッパリと辞めて、Hi-school YMCAの活動で顔を合わせる様になった。

この頃から彼は「松村禎夫・後藤哲夫」の「夫・夫コンビ」となり、今も変わらずに最良のコンビ継続中である。高校2年の時は、松村・後藤・野々垣で奈良進先生の私塾で週一の夜に英語を教えてもらい、勉強が終わると近くの山梨教会で三人、時には牧師も交えて語り合ったが、この時に培った英語力とキリスト教のことを極めた後藤には感服する。

彼は山梨教会、雨宮栄一先生との出会い、受洗、大学卒業、英語教諭の道へと堅実に歩みを進めて行き、人生の集大成として、英語力とキリストの信仰に基づく百年史の翻訳へと取り組んでいった。途中で体調不良もあったが、周りにこぼすことなく気迫で乗り切り、山本俊一さんの支援もあり、翻訳の完成、出版を成し遂げた。翻訳・出版の大仕事を成しえた晩年から体調も滑舌も良くなっている上に、教え子の女の子が大勢いる山梨英和の同窓会には頻りに顔出しをしている。私の姪っ子も教え子の一人で、先日も「おじちゃん、同窓会でゴテツ先生に会えたよ」と昔の13才が今や50才になって、嬉しそうに話していた。後藤がトシを忘れるのも無理は無いと羨ましく思う次第である。



卓話者の後藤哲夫ワイズ



報告会：AYC熊本大会 (アジアユースカンファレンス)

大会参加：岩崎葵さん(中大ひつじぐも)



概要

この報告会は、2025年7月30日から8月3日にかけて熊本で開催されたAYC(アジアユースカンファレンス)の振り返りを目的としています。会議では、参加者構成、5日間のスケジュール、主要な活動内容が共有されました。主な成果として、次期アジア太平洋地域ユース代表が選出された一方、ビザ取得の問題による多数のキャンセルが発生したことが課題として挙げられました。

AYC開催概要

日程: 7月30日から8月3日までの5日間

場所: 熊本YMCA阿蘇キャンプ

テーマ: 「平和(Peace)」

副題として「Where do we come from (我々はどこから来たのか)」「What are we (我々は何者なのか)」「Where are we going (我々はどこへ行くのか)」が設定され、ディスカッションが行われた。

参加者構成とキャンセル状況

ユース参加者: 合計29名が参加した。

国別の内訳は、スリランカ1名、台湾3名、タイ6名、ケニア1名、韓国1名、日本17名であった。

日本からの参加者17名の内訳は、東日本区5名、西日本区12名だった。

キャンセル状況: 登録後に8名のキャンセルが発生した。内訳は台湾2名、スリランカ2名、ナイジェリア1名、ウガンダ2名であった。

キャンセルの主な原因として、ビザの発給が間に合わないなどの問題があったことが報告された。

主なプログラムと活動

1日目: 参加者は熊本駅や熊本空港からチャーターバスでキャンプ場に集合し、アイスブレイクを行った。

2日目: 基調講演とグループディスカッションが中心に行われた。

3日目: 午前中にディスカッションとアジア太平洋地域ユース

ース代表選挙が行われ、石巻の川上あかりさんが次期代表に選出された。

午後は阿蘇カルデラを散策し、夜にはカルチャーナイトとキャンプファイヤーが実施された。参加者同士の関係が深まった3日目にバーベキューやカルチャーナイトを行ったことで、コミュニケーションがより円滑になったとの意見があった。

4日目: 午前中に最終発表の準備を行い、午後は熊本市内を観光した。夜はワイズメンズクラブのアジア大会(AC)の晩餐会に参加し、参加者全員で「カントリーロード」を歌って披露した。

5日目: ACの会場に移動し、5日間のディスカッションの成果を発表した。

八鳥舎(はちどりしゃ)の取り組み

講演者: 広島市でブックカフェ「八鳥舎(はちどりしゃ)」を運営する泰彦エリカ氏が講演を行った。同氏はNPOピースボートでの活動経験を持つ。

八鳥舎について: 社会とつながることをテーマにしたコミュニティスペースであり、ジェンダー、環境、平和などに関するイベントを頻繁に開催している。

特に毎月6日、16日、26日には、被爆体験者と対話する会を設けている。

「小さな行動が社会を変える」という思いが込められており、社会的な話題を安心して語れる場を提供することを目的としている。

未解決事項・リスク

参加登録者8名がキャンセルとなり、特にビザ取得の遅れが大きな原因であった。今後の国際イベントにおいて、ビザ申請プロセスの早期化や大使館との連携が課題となる可能性が示唆された。

AI提案

AIが、会議で結論が出なかった、あるいは明確なアクションアイテムが設定されなかった以下の課題を特定しました。ご確認ください。

1. 国際イベントにおける参加者減少リスクへの対策が未決定である問題

今後の国際イベントにおいて、ビザ取得の遅延が原因で参加者が減少する重大なリスクが未解決のままです。過去のAYCイベントで実際に8名がビザ問題でキャンセルした事例があり、同様の問題の再発が強く懸念されます。対策としてビザ申請プロセスの早期化や大使館との連携強化の必要性は認識されていますが、具体的な手順、スケジュール、担当部署が全く決まっておらず、リスクが放置されている状態です。プロジェクトの成功を脅かすこの問題に対し、早急に具体的な解決策を策定し、実行計画を立てる必要があります。以上AIより

中央大学国際ボランティアサークル からのご挨拶

この度、サークルの運営の引継ぎが行われ、次年度の委員長を担当いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。次年度におきましては委員長1名、副委員長2名で運営を行う方針とさせていただきます。以下に各メンバーの挨拶を送らせていただきます。

次期委員長 霞 ひかる さん

ひつじくも次期委員長を務めさせていただきます。総合政策学部国際政策文化学科2年霞ひかる(かすみひかる)と申します。まだ至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ひつじくもがより活発で参加しやすい団体となり、より多くの学生にとって魅力ある場となるよう、精一杯努めてまいります。

これまで築かれてきた活動の土台を大切にしながら、新しい挑戦にも前向きに取り組んでいきたいと考えております。

今後とも変わらぬご支援とご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

次期副委員長 櫻井 美佳子 さん

ひつじくも次期副委員長を務めさせていただきます。法学部法律学科2年の櫻井美佳子(さくらいみかこ)と申します。

高校時代にはボランティア部と他の部活の部長をしておりました。

このような運営には慣れていないため、至らぬ点も多々あるかと存じますが、今まで以上に主体的に考え、責任を持って努めさせていただきます。

他の幹部と協力しながら、ひつじくもの温かい雰囲気作りを継続できるように努力していこうと思います。よろしくお願いいたします。

次期副委員長 小倉 美 さん

ひつじくも次期副委員長を務めさせていただきます。法学部法律学科2年の小倉美(おぐらみゆう)です。

出身は群馬県で、自然に囲まれて育ちました。趣味は、美味しいものを食べる、漫画やアニメを見ることなどです。

今まで幹部を努めるという経験はほぼなく、不安も多々ありますが、委員長をはじめとした部の人やサークルのメンバーと協力して精一杯頑張ります。よろしくお願い致します。

東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

1. 9月27日、「第39回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン 2025」が都立木場公園で開催された。当日は、43チーム276人のランナーが参加した他、子どもたち、ボランティア、スタッフなど合わせて約1,100名が集った。また駅伝大会に加え、歩数計アプリを利用したウォーキング大会を16日間にわたり同時開催し、個人参加の「らくらくウォーク」に184人、チーム参加の「チームレース」に25チーム292人が参加した。益金は4,503,000円となり、チャリティーラン当日の募金箱には34,287円が寄せられた。益金は、東京YMCAと全国YMCAが行う障がい児支援プログラムのために用いる。
2. 10月4日、山中湖センターにて「ユニバーサルフェスタ」が開催され、参加者とスタッフあわせて55名が参加した。車椅子の子どもたちをはじめ、様々な背景を持つ子どもたちがクライミングやモルック等のアクティビティを通して交流を深め活気あるイベントとなった。また、当日はパラクライマーの平井亮太選手が来場し、クライミングパフォーマンスを披露した。開催にあたっては、山梨学院大学障害者スポーツゼミの学生をはじめ、多数の団体に協力をいただいた。
3. 10月11日～13日、三菱商事株式会社と協働し、発達障がいのある子どもたちを対象とした「三菱商事・東京YMCA秋の山中湖キャンプ」が実施された。24名の子どもたちが参加し、山中湖センターでのキャンプを満喫した。
4. 11月4日より冬期・春期キャンプ・スクールの受付を開始する。スキーキャンプ、水泳、英語、リミックなどの各種プログラムを準備している。
5. 今後の主な行事予定
 - ・「早天祈禱会」11月4日(山手センター／オンライン)
奨励:瀧澤 栄子氏(公益財団法人東京YWCA運営委員会副会長)
 - ・「ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会」11月4日
～6日 会場:アルカディア市ヶ谷
テーマ:「Our Responsibility for the Future - To Leave No One Behind」

YMCA 便り続き

- ・「YMCA/YWCA 合同祈禱週礼拝」11月13日 在日本韓国YMCA9階国際ホール
メッセージ:金聖泰(キムソンテ)牧師(在日大韓基督教会 東京教会 副牧師)
- ・「第27回愛恵エッセイ」11月14日まで作品募集(愛恵福祉支援財団との共催)
テーマ:「豊かな福祉社会を創るために」
- ・「国際協力一斉街頭募金」11月15日 新宿駅周辺
- ・「賛助会年会・アドバイザー会」11月17日 会場:アルカディア市ヶ谷
講演:村井純氏(慶応義塾大学特別特区特任教授)

わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

秋も深まり、木々の葉が赤や黄色に染まる美しい季節となりました。高尾の森わくわくビレッジでも、秋風に包まれながら、子どもたちの笑い声が響くにぎやかな日々が続いております。

9月に引き続き、10月も多くの特別支援学校の皆さまにご利用いただきました。澄んだ空の下での野外活動や宿泊体験を通して、子どもたちは自然とふれあひながら笑顔を見せてくれました。教職員の方々からも、「広々とした環境の中で、子どもたちがのびのびと過ごせた」との声をいただき、スタッフ一同、嬉しく思っております。

また、今月から新たな取り組みとして、これまで実施してきた約100種類の体験プログラムの見直しを始めました。これまで以上に「楽しい」だけでなく、「学びにつながる体験」を提供できるよう、内容の充実を図っております。たとえば、自然観察や工作の中に学びの視点を取り入れ、子どもたちが自ら気づき、考え、創り出す力を育むプログラムへと進化させてまいります。

さらに、10月18日から11月3日までの間の土日には、多摩美術大学によるイベント「ポイエーシス」を開催しております。自然の中で見つけた木の実や枝などを使い、動物をかたどった作品をつくるワークショップです。

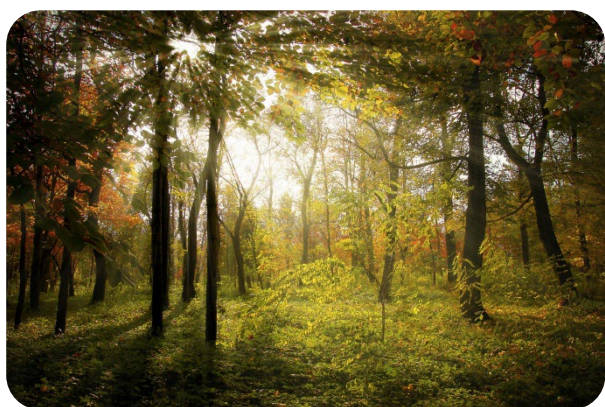
わくわくビレッジ便り続き

期間中は約 100 名の子どもたちを招待し、アートと自然が融合した創作の時間を楽しんでもいただいております。子どもたちが真剣な表情で手を動かし、完成した作品を誇らしげに見つめる姿は、まさに秋の風景の一部のようでした。

これからも、高尾の森わくわくビレッジでは、自然と人がつながる温かい場づくりを目指し、皆さまのご支援に感謝しながら活動を続けてまいります。



写真:高尾の森わくわくビレッジのオリジナルキャラクター「たぬきち」が原っぱのお散歩をし枯れ葉で遊んでいるところです。



今月の聖句によせて

山上の説教のなかで、「祈るときは、人に見てもらおうと目立つところで祈るのではなく、奥の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。」と、イエス・キリストは弟子たちや群衆に向け、今月の聖句に記したように簡潔に祈るべき言葉を教えられました。今、私たちが礼拝で唱和する「主の祈り」です。

照れや、めんどうだといふことで祈ることが少なくなったわたしたち。現代人の多くは、自分の人生は自分で切り開き、自分の幸福は自分で得ていくものだ、として、みんな幸福になっているはずなのに、気が付くと、消えることのない不安や孤独感に、いつまでも得ることのできない心のやすらぎ。いつも誰かがどこかで見守ってくれている、という安心感は、子どもにも、おとなにも何より大切なことでしょう。祈りには、いつも語りかけに応答してくれる神様の存在を知る中、見守られている安心が与えられます。

そして、歩みだすべき方向を見出そうとする第一歩を踏み出す勇気が与えられます。

世界のYWCA/YMCAは、1907年より、毎年、11月の第週を「世界YWCA/YMCA 合同祈禱週」と定め、共通のテーマのもとに祈りを合わせることにしています。今年は11月9日から15日までで、共通のテーマは「こわれたものからの美しさ」です。

(並木信一)



ひつじぐも便り

中央大学経済学部1年の黒澤彩

木々の葉が色づき、風の冷たさに冬の訪れを感じる季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

私事ではありますが、大学生活が始まってから日々の授業や課題、アルバイトなどで少し忙しくしており、ワイズの定例会にはまだ1度しか参加できていません。それでも、そのたった1度の定例会がとても印象に残っています。初めて参加したときは少し緊張していたのですが、ワイズの皆さんがあたたかく迎えてくださって、すぐに安心した気持ちになりました。

活動の話や、これまでの経験、そしてそれぞれの思いを聞くことができ、自分の知らなかった世界が広がったように感じました。9月には、八王子でのゴミ拾い活動や児童館での交流活動が行われましたね。地域の方々と関わりながら街をきれいにしたり、子どもたちと触れ合ったりする姿を見て、ワイズの活動が「人と人をつなぐ」大切な場になっているのだと感じました。自分も今後こうした活動に参加して、実際に地域の中で人と関わる経験を積んでいきたいと思います。特に印象的だったのは、皆さんがそれぞれの活動に真剣に向き合いながらも、楽しそうに話していたことです。ボランティアという少し堅いイメージを持っていたのですが、ワイズの皆さんの姿を見て、「人と関わること」や「誰かのために動くこと」は、こんなにもあたたかくて柔らかなものだと感じました。自分もいつか、そんな風に自然に誰かの力になれるようになりたいなと思いました。これからは少しずつ時間を見つけて、ワイズの活動にも積極的に参加していきたいです。



まだまだ分からないことばかりですが、先輩方や同じ学年の仲間たちと一緒に、少しずつ経験を積んでいけたらと思っています。そして、活動を通してたくさんの人と出会い、自分の世界を広げていけたら嬉しいです。

寒さが厳しくなる季節ですが、皆さまどうぞお身体に気をつけて、あたたかくお過ごしください。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

初めてのクラブ定例会

ひつじぐも 2年 櫻井未佳子

この度は、定例会に参加させていただき、ありがとうございました。私自身、定例会の参加自体が初めてだったので少し緊張していましたが、会場に入った瞬間から笑



顔で迎えてくださって、みなさんのワイズソングを聴いたり、一緒にワイズの信条を読み上げたりしているうちに穏やかな、落ち着いた気持ちになりました。

初参加の私にも優しく接してくださって、とても居心地が良い場所だと感じました。

今回の定例会では、以前熊本で開催されたAYC(アジア太平洋地域ユースコンボケーション)についての活動報告を伺うことができました。

私と同じサークルであり、AYCに参加された岩崎さんとお話



したのですが、残念ながら、ご本人からお話を聞くことはできませんでしたが、ワイズが写真や動画と

の様子を詳細にお話ししてくださいました。画面に映る写真の一枚一枚から、参加者の方々が楽しそうに、積極的に参加されている様子が鮮明に伝わってきました。

一つのテーマについて、初めて会った異なる視点を持つ人たちと議論を交わすというのはとても素敵な体験だと強く感じました。また、活動を通して異なる国の人が和やかな時間を共有している様子は、写真や動画から感じることができました。

動画では、音楽に合わせて踊っていたり、最終日にみんなでカントリーロードを歌っていたり、参加者が打ち解けて楽しんでいる様子が見られました。岩崎さんからは今度他の機会に、直接具体的なエピソードや参加された感想などを伺ってみたいと思いました。

定例会に参加させていただき、活動報告から多くの刺激を受け、また皆様の温かさに触れることができました。

このような貴重な学びと交流の機会をいただけたことを心より嬉しく思っております。これからも皆様とのご縁を大切に、活動を続けてまいります。また次の定期例会や他の活動にも参加させていただきたいと思っております。改めまして、本日は誠にありがとうございました。

サークルイベント報告書

法学部1年・大橋優佳

10月5日、イオンモール川口にて開催された「つながるフェスティバル」において、サークル「ひつじくも」は多文化体験ブースを出展しました。昨年に続き二度目の参加となり、このような貴重な機会を今年もいただけたことを、まず心より感謝申し上げます。



私は今回が初参加でしたが、前回の先輩方の経験をもとに、より安全で、来場者との相互交流を生む場づくりを目指しました。

準備段階で

は、韓国・中国・フィリピンの三文化に分かれ、少人数のグループで遊びの内容や導入の仕方、道具や会場装飾の製作まで担当しました。その過程において、本国で遊びが行われる場面など、単なるルール理解を越えて文化的背景にも視野が広がり、各自が調べた内容を持ち寄って共有する機会も生まれました。単に遊びを用意するのではなく、その国のお菓子をを用意するなど、その国らしさをなるべく伝えられるようにすることを意識して準備を進めたことは、自己の文化理解を深める貴重な経験となりました。

企画にあたって最も重視したのは、子どもたちの安全確保です。会場の動線やマットの配置を細かく確認した上で準備を行いました。当日、一部で転倒の恐れが生じることがあり、私たちは即座に人員配置を変更し、安全を確保しました。計画通りでない状況が必ず発生するという前提に立ち、その都度判断し行動する重要性を実感しました。

ブースでは、韓国の伝統遊びであるトッホ、中国の七巧板、フィリピンのサックスレースの三種を体験企画として実施しました。いずれの遊びも子どもたちが積極的に取り組む様子が見られ、想像以上に集中力や工夫を発揮する姿が印象的でした。また、保護者の方から今回の活動の趣旨や私たちサークルについて、遊びの内容などについて質問をいただく機会も多く、準備の中で得た知識を実際に言葉にして伝える機会が生まれました。

一方向の説明ではなく、対話の中で相手の反応から理解が深まっていく瞬間が多くあり、文化交流とは、会話を通じて互いの視点が広がり、新しい価値をともに見つけていく時間なのだと感じました。

今回の参加を通して、安全面を含む運営力と、文化を媒介として人と向き合う姿勢の双方磨き続けていく必要があることを強く実感しました。改めて、このような貴重な機会をいただけたことに深く感謝申し上げます。今後も安全かつ双方向的な交流を大切にし、多文化理解と関心をさらに広げられる活動を続けていきたいと強く感じました。

10月クラブの例会報告 小口 多津子 (書記)

日時: 10月11日(土) 18:00～ 北野事務所2F

出席者(敬称略) A(長谷川、並木真、稲葉、小口)

B(久保田・久保田佐和子、花輪、望月)

C(山本)、ゲスト(ひつじくも2年、桜井美佳子)

合計 10名

司会: 花輪ワイズ 受付でプリテン 10月号配布: 山本

① 開会点鐘、挨拶: 長谷川会長

② 卓話: この日は、(AYCに参加して)の卓話をお願い



していましたが、ひつじくも3年岩崎葵さんが風邪の高熱が出て急遽、ご欠席という一報が、開始時間少し前に真さん携帯に入ってきました。

幸いに事前に、真さんがPCに資料を受け取られていたので、映像を見ながらユース主任としてコンボケーションに関わられたので、岩崎さんの代理で、大まかな内容を説明して下さった。

・参加者人数 29名(インド1名、タイ6名、韓国1、台湾3、日本17(東5名、西12名)他。

・テーマ・・・Peace (Where do we come from? What are we? Where are we going?)



1日目(アイスブレイク)、2日基調講演 3日目ユースアジア代表を決める選挙、日本から石巻の川上わたるさんがアジアのユース代表(2年間)に選ばれた。阿蘇の見学、キャンプファイア。

4日目カルチャーナイト、5日目、ワイズのアジア大会に参加して、晩餐会、ユース報告、演奏。

・(機会があれば、ご本人から改めて報告を頂くことに)。支援金授与もその時に。

- ③ 東京 YMCA 報告:担当主事西嶋さん欠席につき会長から代理で報告。

ブリテン 10 月号 7、8 頁の報告の中から、クラウドファンディングの呼びかけでサマーキャンプが実施された。

- ④ クラブ報告:会長より。

・37 回 YVLF(9/5~7) ・ぶどう棚例会(甲府 21)9/

20 ・39 回チャリティーラン

・21 回富士山例会(富士五湖クラブ)9/27, 28

- ⑤ 今後の予定:会長より

・10/11(土)本日は、東京グリーンクラブからひつじくも 3 人が招待された「神田川船の会」が天候不順で中止となった。(ひつじくも参加予定者、石原島、小宮、櫻井さん 3 名)

・10/25、26 長野クラブ 15 周年例会・・長谷川会長が代表出席。

・11/8(土)11 月第一例会、八王子ベテル教会にて、13:00~15:00 食事付 C 班。

卓話「日本での 100 年カナダ・メソジスト教会の歩み」後藤哲夫ワイズ(甲府 21)

・11/15(土)伊東クラブ 50 周年記念例会サンハトヤ、長谷川会長、久保田、並木(真)参加

・11/22(土)11 月第二例会。小会議室。6 時~

・12/14(日)15:00~ 高尾わくわくビレッジ音楽室、12 月クリスマス例会 A 班

・2026 年 1/10 在京ワイズ新年会 東京 YMCA 東陽町センター。

・2026 年 1/24(土)1 月第一例会、B 班 卓話予定者あり交渉中。

- ⑥ 第 24 回チャリティーコンサート(花輪実行委員長)開催半年前につき会場使用料を払い込み済み、その後、ポスターをセンターに届ける。

- ⑦ ユース事業から並木真主任・・11/9 に熊本 AYC 報告会(zoom のみ)3 時~5 時。

- 8) ひつじくも報告を出席の櫻井さんより、今年の中大白門祭は、抽選漏れで、ひつじくもの展示・発表がありませんとのこと。

10 月に川口イオンで多文化共生活動をした。

- 9) スマイルは無し。



ハッピーバースデー 並木真(20日)、小口(4日)

11 月ご誕生されたメンバー

花輪 豊子さん 4日

山本 英次さん 26日

11 月例会卓話者紹介

後藤先生のプロフィール

後藤哲夫(ごとう・てつお)

1943 年 9 月 1 日甲府市生まれ

甲府一高、上智大学卒業

元山梨英和学院中・高等学校 英語科教諭。

《訳書》 マルガレーテ・シュナイダー『パウル・シュナイダーの殉教』新教出版社、

1974 年 カール・バルト著作集 7『政治・社会論文集 下』(共訳)、新教出版社、

1975 年 K-H・シェル『賀川豊彦 その社会的・政治的活動』教文館、

2009 年 グウェン・ノルマン/ハワード・ノルマン『カナダ合同教会日本での 100 年』

▽甲府一高時よりハイ Y 活動。ミズガキ天使園において開墾作業などを行う。

その後当時の仲間に誘われてワイズメンズクラブへ入会。



悲しみ
を
包み
こむ

に包ま
れる
慈母・